

2013年10月7日

報道関係各位

三菱地所株式会社

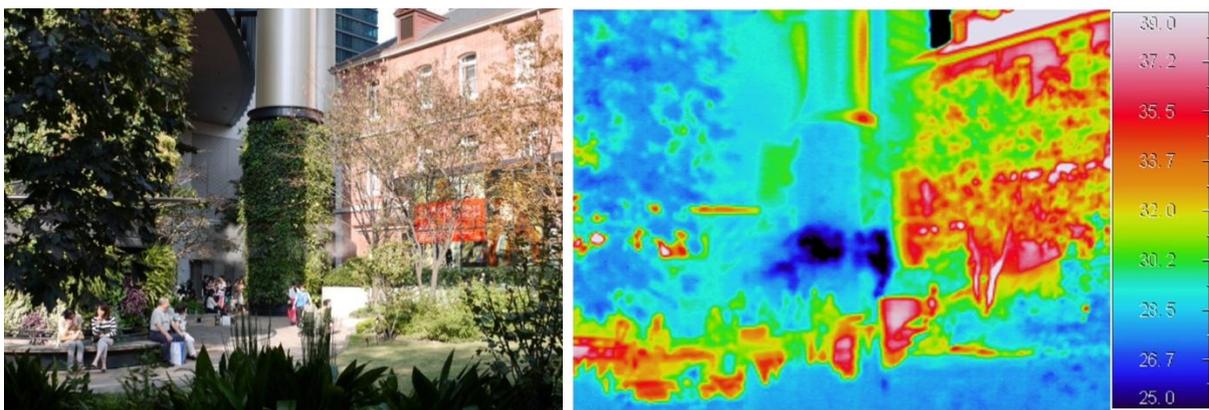
丸の内パークビルディング・三菱一号館が
社会・環境貢献緑地認定プログラム「都市のオアシス」の認定緑地に選定

三菱地所株式会社（本社：東京都千代田区、取締役社長：杉山 博孝）が開発し、2009年に竣工した「丸の内パークビルディング」・「三菱一号館」が、公益財団法人 都市緑化機構（東京都千代田区、会長：矢野 龍）の運営する認定プログラム「社会・環境貢献緑地評価システム：通称SEGES（シージェス）」の個別部門「都市のオアシス」において認定緑地の一つとして正式認定されましたのでお知らせいたします。

本認定プログラムは、公益財団法人 都市緑化機構が、ヒートアイランド現象等で悪化する都市環境において、安らぎと憩いを提供する緑地の重要性に関する理解を普及するため、民間事業者が都市環境への貢献を目的に整備・管理する優良な緑地空間を「都市のオアシス」として認定を行うもので、初年度となる本年、「丸の内パークビルディング」・「三菱一号館」が本年8月7日に認定候補の一つとして選定されていました。現地に設置された体感温度を簡易的に測定できる特殊な計測器「居心地メーター」を用いて、緑化による体感温度低下の効果を測定し、本認定に至ったものです。

今回認定緑地として正式認定された丸の内パークビルディングと三菱一号館に囲まれた「一号館広場」は、四季折々の表情を見せる多様な植栽や噴水等の水景施設等が設置され、2009年4月の誕生以来、地域の皆様に憩いと潤いを提供し、多くの皆様に快適にご利用頂いております。

「プランテッド・コラム」と呼ばれる一号館広場を特徴づける丸柱の緑化や、ドライミストなどの新しい環境技術の導入、再生雨水を利用した水景施設など、先進的な環境技術とランドスケープをうまく組み合わせることで、これからの広場の一つの在り方を提案してきました。



▲プランテッドコラム(中央)と一号館広場のサーモグラフィ画像（提供：(公財)都市緑化機構）

三菱地所は、今後も人々に癒しと潤いを提供する環境づくりを目指してまいります。

■丸の内パークビルディング・三菱一号館・一号館広場の概要

所在地：千代田区丸の内二丁目6番1号、2号

敷地面積：約 11,900 m²

延床面積：約 205,000 m²

(事務所) 約 158,000 m²、(店舗) 約 18,000 m²、(美術館) 約 6,000 m²

容積率：1,565%

階数・高さ：(丸の内パークビルディング) 地下4階・地上34階・塔屋3階、約 157m

(三菱一号館) 地下1階・地上3階

構造：(丸の内パークビルディング) 鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造

(三菱一号館) 煉瓦組積造

用途：事務所、店舗、美術館、地域冷暖房施設、駐車場等

設計監理：株式会社三菱地所設計

■認定プログラム「都市のオアシス」の概要

主催：公益財団法人 都市緑化機構

認定基準：市街地（市街化区域内）に位置し、「公開性・市民性」、「安全性」、「環境への配慮」を満たす民有の緑地

選考スケジュール：6月上旬 【書類選考】 認定候補の選出

6月～8月 【現地確認】 所有者ヒアリング

10月7日 【認定審査】 最終選考及び認定

10月23日 【表彰・発表】 認定式

※「都市のオアシス」の認定基準

市街地（市街化区域内）に位置し、以下の条件を満たす民有の緑地

公開性・市民性	一般の多くの人々が利用可能で、アクセスしやすい場所に設置されている
安全性	管理者が明確で日常的な維持管理がなされ、利用にあたっての安全性が確保されている
環境への配慮	都市の温暖化の抑制や生物多様性の保全など環境に対する配慮がなされている

<参考：三菱地所の環境への取り組み>

三菱地所株式会社では、2010年度に2050年に向けた「三菱地所グループ長期環境ビジョン」を策定するとともに環境スローガン「街の力を、地球の力に。」を定めました。三菱地所グループの基本使命である「地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献」に努めてまいります。

街の力を、
地球の力に！

※丸の内エリアでの具体的な取り組み

オフィスビルにおける地球環境温暖化対策

東京都環境確保条例に基づく「温室効果ガス排出総量削減義務と排出量取引制度」において地球温暖化対策が特に優れている事業所として、丸ビル、新丸ビルをはじめ、4棟が「トップレベル事業所（優良特定地球温暖化対策事業所）」に認定されています。

ドライミストの設置

霧（ミスト）状の水を大気に噴射し、水が蒸発する際の気化熱の吸収により空気を冷やす冷房方法です。粒子が小さいため水は素早く蒸発し、肌や服が濡れることもありません。丸の内仲通りなど一部地域で導入され、気温や湿度などが一定の条件を満たすと自動的に噴霧されるようになっています。

環境戦略拠点「エコツェリア」

環境情報の発信やイベントのほか次世代低炭素型技術実証オフィスとして運営しています。産官学民とのパートナーシップを図り、エコに関するノウハウやコンテンツの蓄積と情報発信、イベントの開催などさまざまな活動を行っています。

「自然環境情報ひろば 丸の内さえずり館」

三菱地所がCSR活動の一環として運営している施設。NGO、NPOと協力して展示やセミナー、イベントなどを開催、自然保護や環境保全に関する情報発信および啓発を行っています。2009年より毎月実施している丸の内エリアの生物調査の結果を纏めた小冊子「丸の内生きものハンドブック」を作成し、本年6月より、配布しています。

打ち水の実施

日本の伝統的な知恵「打ち水」により、ヒートアイランド現象の緩和を目指して、行幸通りなどでの打ち水イベントのほか、7～8月は丸の内仲通りのショップにもご協力頂いて実施しています。夏の暑い日に打ち水をすると、撒いた水が蒸発する際に気化熱を奪い地面の温度を下げ、気温を下げる効果や気温差により風を生み出す効果があります。

以上

オフィスビル環境取り組みのポイント！

屋上緑化

建築物の断熱性を高め、大気汚染物質の吸収・吸着の効果も期待できる屋上緑化は、丸の内エリアでも多くのビルでとり入れられています。



クールルーフ

屋上に遮熱塗料を塗布することで、日射による室内温度上昇を低減します。



太陽光発電

新しいビルでは屋上等に太陽光パネルを設置するなど、自然エネルギーの利用に努めています。



ひさし

直射日光が室内に入りにくくなり、室温の上昇を抑えます。

超高効率型照明

反射板の形状、塗装などを工夫し、消費電力を抑えた照明です。



エアフローウィンドウシステム

二重ガラスの間の空気層に室内空気を循環させ、外部からの熱負荷を軽減します。



Low-Eペアガラス

熱を通しにくいペアガラスで、外部からの熱負荷を軽減します。

保水性舗装

車道や歩道に保水性の高い路盤材を使用し、雨の日は水たまりができにくく、晴れの日には蓄えた水が気化して、まちの気温上昇を抑えます。



地域冷暖房システム

熱源施設を集中化し高効率な熱源機器を使用することにより、エネルギー使用量の削減を図り、エネルギーの有効利用やCO₂の削減に努めています。



水の循環システム (中水の利用)

雨水やビルで使用した水を浄化し再利用しています。トイレの水に利用するほか、東京都と協働で行幸通りに散水し、路面温度の上昇を抑える試みを行っています。

～地球に優しい～ EV・HVタクシー

排気ガスを出さない、電気自動車のタクシーが走っています。新丸ビルの前には乗り場があります。



IPM管理

病虫害防除を行うときに、調査に基づき害虫の生息場所を特定して防除を行い、薬剤散布を可能な限り低減させるように努めています。また、植栽への消毒もできるだけ少なくし、環境への負荷を小さくしています。

共同物流

丸ビル・新丸ビル館内へ配達される宅配荷物は物流会社3社が共同化し、一括してエレベーターで各階へ配送し効率化に努めています。

生ゴミリサイクル

丸ビルや新丸ビルをはじめとした一部のビルでは、生ゴミを飼料、肥料、燃料にリサイクルしています。